

# 漁連だより

2025

1

No.354



2025 長崎ランタンフェスティバルの様子

## CONTENTS/目次

特集

## 年頭挨拶

P1~

長崎県漁業協同組合連合会 代表理事会長 高平 真二	.....P1
全国漁業協同組合連合会 代表理事会長 坂本 雅信	.....P2
長崎県水産部 部長 吉田 誠	.....P3
長崎県かん水魚類養殖協議会 会長 平野 重美	.....P4
長崎県漁協青壮年部連合会 会長 牧島 裕	.....P4
JF全国代表者集会 開催される	.....P5

㈱オークワ 九州・沖縄フェアを開催	.....P6
第12回長崎発「旨い本マグロまつり」品評会	.....P7
第62回長崎県水産加工振興祭 with ふるさと物産まつり	.....P8
令和6年度 長崎県漁協管理職員研修会	.....P9
第61回長崎県漁協専務参事会通常総会	.....P10
遊漁者の皆様へ	.....P10
第62回長崎県水産加工振興祭水産製品品評会	.....P11
令和6年度臨時人事異動発令	.....P11
募金ありがとうございます	.....P11



# 令和7年『年頭ご挨拶』

長崎県漁業協同組合連合会

代表理事会長 高平 真二

新年あけましておめでとうございます。年頭にあたり謹んでご挨拶申し上げます。

昨年は、元日に石川県を中心に甚大な被害を与えた能登半島地震や、各地で発生した記録的な豪雨・台風による被害など、自然災害の恐ろしさや気象状況の激変を再認識した年となりました。また、長期化するウクライナ侵攻や混迷を極める中東情勢など国際的な緊張の影響と恒常化しつつある円安により、物価の上昇に歯止めがかからず国民生活を圧迫しました。

水産業界においても、国内景気の回復や好調な輸出、インバウンド等の影響で魚価の向上、需要の増加が見られましたが、燃油をはじめとした物価高騰に伴う漁業経費の増大もあり、結果的には大変厳しい状況となりました。

そのような中、9月にはALPS処理水に反発し実施されていた中国による輸入禁止措置の解除が合意に至り、今後の輸出の拡大が期待される所です。しかし、今のところ再開時期や規模も不透明

であり、本会としても引き続きALPS基金事業の確実な実行をサポートし、漁業者への影響緩和に努めていきたいと考えます。

そして12月には、資源の急速な回復を受けて、WCPFC年次会合においてクロマグロ漁獲枠が小型魚10%、大型魚50%の第7管理期間からの増枠が合意に至りました。これは約10年にもわたる漁業者の資源管理の取組みの成果であり、更なる増枠に向けて今後も継続的に管理措置の遵守を推進して参りたいと思えます。

一方、県下に目を向けると、漁業人口の減少と高齢化に伴う慢性的な人手不足が深刻化しており、加えて6月には2年連続で大規模な赤潮が発生し、養殖漁業に大きな被害が出る事態となりました。また、不安定な水揚げ状況が続いており、昨年に続きマイワシ、イサキ、クロマグロ等が好調であった反面、多くの魚種で水揚げが減少しており、特にスルメイカについては著しい減少となりました。本会としまして、この厳しい

現状を乗り越えるため、漁業経営セーフティーネット構築事業や経営体育成総合支援事業、各種リーダ事業等の更なる活用を図るとともに、資源管理の適正な運用のための漁獲情報収集体制の構築、TACの遵守等を推進して参りたいと考えております。

また、経済事業につきましても、本県水産業の特徴でもある日本唯一の魚種の豊富さを生かした高鮮度な新規商品の開発・展開に併せて、安全・安心、そして美味しい長崎ブランド水産物の輸出強化を図り、漁家経営の安定化に少しでも貢献できるよう努力して参る所存です。

新年を迎えるにあたり厳しい世情ではありますが、長崎県水産業の発展に向け関係団体とともに連携を強め努力して参ります。

この1年が皆様にとりまして良き年でありますとともに、豊漁と操業の安全、ご多幸を心より祈念申し上げます。新年のご挨拶といたします。



# 「新年のご挨拶」

全国漁業協同組合連合会

代表理事会長 坂本 雅信

あけましておめでとうございませう。年頭にあたり、全国の皆さまに謹んで新年のご挨拶を申しあげます。

振り返りますと、昨年も多くは自然災害に見舞われた1年でした。その中でも、1月に発災した令和6年能登半島地震は記憶に新しく、漁業者の大切な生活基盤である漁港がこれまで経験したことのない地盤の隆起により、甚大な被害を受けました。本地震の被害に対し、皆さまには募金や物資の支援などについて多大なご協力を戴いたところですが、被災地では今も漁業関係者のみならず地域住民が一丸となって復興に向けて尽力しており、本会では引き続き皆さまのご協力を得ながら、一日も早い復興に向け、支援して参る所存です。

このほか、私たちの生業の場である海の環境は、変化の一途をたどっており、海水温の上昇などの影響を受け、前浜における漁獲魚種の変化や漁業生産量の減少が顕著となっています。海洋環境は今、

「激変の時代に突入した」と言え、JFグループは、この海洋環境の激変に立ち向うべく、自らの役割使命が大きく問われています。

そのため、我々は昨年12月に全国から約1,000人のJF代表者が参集した「JF全国代表者集会」を開催し、「漁業者を支える事業・経営改革の断行」、「組織基盤の確立」、「浜での中核的役割発揮による漁村・漁業への貢献」の3つの取り組みを柱に据えた今後5か年の新たな運動方針をJFグループ総意の下、採択し、総力を挙げて、JFの自己改革を断行することを決議しました。

私自身、日本の漁業にはポテンシャルがあると確信しており、これからの5年間は、まさにそのポテンシャルを引き出す時だと考えております。JFグループは、新たな運動方針の下、海洋環境の激変や資材価格の高騰、ALPS処理水の海洋放出に伴う海外における水産物の輸入規制など、山積した課題や困難を克服し、漁業者の

所得向上を図るとともに、持続可能な漁業経営と水産食料の安全保障をはじめとした漁業者・国民の負託に応えるべく、組織の総力をあげて取り組んで参ります。

そして、我々は日本の海や漁村の地域資源の価値や魅力をさらに活用・発信して、地域の賑わいや所得と雇用を生み出すことが期待される「海業」の振興などとともに、「浜の活力再生プラン」を推進して参ります。併せて、プライドフィッシュプロジェクトなどを通じて、国産水産物の消費拡大の一翼を担っていく所存です。

JFグループ関係者の皆さまにおかれましても、これまで以上に英知と総力を結集していただき、本会の活動に対して、引き続きのご協力・ご賛同を頂きたいとお願い申し上げます。

最後となりますが、漁業の豊かな将来を念じつつ、全国各地でご活躍の皆さまの操業の安全とご繁栄・ご健勝を祈念いたしまして、新年のご挨拶といたします。



# 「新年のご挨拶」

長崎県水産部  
部長 吉田 誠

新年明けましておめでとござ  
います。皆様方には、健やかに新  
春をお迎えのこととお慶び申し上  
げます。

本県の水産業は、地域を支えて  
いる基幹産業です。近年は魚価の  
回復や生産額の増加など明るい状  
況も見られる一方、資源の変動や  
漁業就業者の減少、赤潮の発生、  
燃油・飼料・資材価格の高止まり  
など、自然や社会経済の環境変化  
への対応がますます重要となつて  
おります。

これらの課題を乗り越え、本県  
の水産業振興や漁業所得の向上に  
向けた新たな一歩を踏み出せるよ  
う、県では、浜の声をしっかりと  
お聞きしながら必要な施策を積極  
的かつ着実に推進してまいります。

具体的には、生産性や収益性の  
向上に向けた新漁法導入や経営の  
多角化などのチャレンジ支援やス  
マート化の推進、漁村の賑わいと  
新たな所得の創出のための海業の  
促進、養殖生産の安定化・規模拡  
大に向けた先端技術の実証・導入  
や中核的養殖業者の育成、漁場の  
有効利用などに取り組みます。

輸出対策については、西日本随  
一の生産力を背景に、中国におい  
て日本産水産物の輸入が解禁され  
た際の輸出再開をはじめ、東南ア  
ジア等への新たな販路開拓・拡大  
に力を注いでまいります。

また、本県では、多彩な「食」  
の魅力を発信して消費の拡大を図  
るため、民間事業者や市町の皆様  
とともに「食の賑わいの場」の創  
出に取り組んでおります。併せて、

水産物については、県内の魅力あ  
る魚種を「推し魚」として選定し、  
長崎県だからこそ味わえる水産物  
の魅力を県内外に強く発信してい  
きたいと考えております。

さらに本年は、「多様な人材が  
活躍し、環境変化に強い持続可能  
な水産業と賑わいのある漁村づく  
り」を基本理念とする長崎県水産  
業振興基本計画の最終年度を迎え  
ます。力強い水産業の実現のため  
各種施策を進めてまいりますので、  
皆様方のご支援、ご協力をお願い  
申し上げます。

本年が皆様にとりまして、輝か  
しい年となりますよう心からお祈  
り申し上げます。新年のご挨拶とい  
たします。

## 「新年挨拶」

長崎県かん水魚類養殖協議会  
会長 平野 重美



明けましておめでとございます。皆様におかれましては、輝かしい新年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

昨シーズンを振り返りますと、生産コストの約8割を占める餌料価格の高騰や資材価格の上昇、赤潮等自然災害による被害など、養殖業は大変厳しい状況に直面しました。

特に餌料関係では、生餌の高騰が著しく、サバやイワシ等の使用量の多いブリ類やマグロの養殖業者への影響が深刻化しております。

将来の水産業のためサバやイワシの資源管理は大変重要であり、漁獲枠を

設定し漁獲をある程度制限することも必要なことだと思えます。しかし、このままの状況が続けば養殖業者の漁家経営が成り立たず、廃業に追い込まれることも危惧されます。本協議会としましては養殖業者が安心して経営を続けられるよう、支援策の充実や拡大を目指し、全海水等を通じて国に要望を続けています。

また、本県では2年続いて大規模な赤潮が発生しており、長崎市や雲仙市、松浦市等広い地域で、ブリ類やマグロ等養殖魚約57万尾が斃死し、被害金額は約16億円にも上りました。

赤潮はひとたび発生すると短期間で急速に拡大し、被害も甚大となることから、各地域における迅速な対応が大変重要だと考えます。

被害を最小限に抑えるためには、地域ごとに備蓄場を設置し、充分な量の赤潮防除剤を確保するなど、日頃からの備えが必要だと考えます。

販売面では、輸出に関しては円安やアメリカ等の物価高が追い風となり、国の養殖業成長産業化の施策と相まって大変好調な状況が続いております。また、国内においても外食需要が順調に推移しており、安定した状況が続いております。しかし、これらの状況がいつ一変するとも限りません。本協議会としまして、県漁連と連携し養殖魚の魅力発信するとともに、安全・安心な養殖魚を保証する「適正養殖業者認定制度」の認知向上と加入促進を図り本県養殖魚の販売拡大に努めて参りたいと考えます。

今後本協議会としましては、本県養殖業者の経営安定を図る為、各種事業の推進に取組んで参りますので、関係者の皆様におかれましては、ご協力とご支援を賜りますようお願い申し上げます。年頭の挨拶と致します。

## 新年挨拶 本県水産業の 発展に向けて

長崎県漁協青壮年部連合会  
会長 牧島 裕



明けましておめでとございます。健やかに新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。

旧年中は各漁協青壮年部をはじめ、系統団体や行政の皆様方には本会に対しまして、多大なるご協力を賜り心より厚く御礼申し上げます。

さて、昨年は1月1日に発生した能登半島地震や記録的猛暑、大型の台風10号が本県へ上陸し列島を横断する等自然の脅威を感じる年となりました。水産業に目を向けると、資源の減少や漁業者の高齢化、就業者不足が深刻化

しております。また橋湾では2年連続となる赤潮が発生し、養殖魚が斃死する等甚大な被害を受けました。

このような中、県漁連では、長崎女子短期大学との水産教室を1年生、2年生を対象に実施し、魚の捌き方ももちろんのこと、その魚がどういう魚なのか、どこで水揚げされたものなのか興味を持ってもらうと同時に魚食普及と消費促進を図って参りました。

第70回定期総会終了後には、青壮年部や水産業が抱える問題について部員同士が自由にディスカッションを行う「意見交流会」を平成30年以来に開催しました。また、11月に開催しました「第27回全国青年漁業者交流会長崎県大会」では、研究実践してきた水産業に関する技術、経営ならびに地域活動等の成果を発表し、相互間の知識体験の交流を通じて活動意欲の向上を図りました。大会終了後にはボウリング大会を開催し部員同士の親睦を図りました。

現在、県下漁協青壮年部員の高齢化等により、会員数、会員部員数ともに年々減少傾向にあります。漁協青壮年部活動の強化・発展を図るためにも積極的な情報収集や共有を行うとともに未加入青壮年部への加入推進を重点目標として本年も活動して参りたいと考えておりますので、皆様のご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本年が皆様におかれまして輝かしい年となりますよう祈念すると共に、航海の安全と大漁を心からお祈りいたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

# JF全国代表者集会 開催される

総務指導部 指導課



JF全漁連 坂本会長（主催者挨拶）

さる12月4日、砂防会館（東京都）において「JF全国代表者集会」が開催されました。

当日は、全国のJFグループの代表者を中心に約1,000名が一堂に会し、新たなJFグループの運動方針（2025（2029年度）、及び特別決議が採択されました。

集会では、久保田正JF全漁連代表理事副会長による開会宣言、喜田ヒサ子JF



運動方針採択の様子

全国女性連会長のリードによるJF綱領の唱和、坂本雅信JF全漁連代表理事会長による主催者挨拶の後、石破茂内閣総理大臣によるビデオメッセージ、橘慶一郎内閣官房副長官、笹川博義農林水産副大臣、鈴木俊一自由民主党総務会長、大島信之JA全中副会長理事による来賓挨拶が行われました。

新運動方針では、「海洋環境の激変に立ち向かうJF自己改革の断行（参加と利用の結集による総合事業体としての強み発揮と漁業・漁村の持続的発展への貢

献）」をスローガンに、3つの柱として、  
①漁業者を支える事業・経営改革の断行  
②組織基盤の確立、③浜での中核的役割  
発揮による漁村・漁業への貢献、を掲げ、それぞれの柱で取組みを実践することが示されました。

さらには、①水産物の安定供給、②沿岸域の環境・生態系保全、③国境監視や海難救助、という「3つの防人」としての組合員・JFによる様々な役割発揮について示され、漁業・漁村への多面的機能の発揮に取組むことが示されました。

新運動方針の採択に向けては、竹中太作JFぼうぜ代表理事組合長、川畑友和JF山川町理事が意見表明を行い、その後、阿部誠二全国漁青連会長理事が運動方針採択を読み上げ、満場一致の拍手にて採択されました。また、特別決議（案）を阿部国雄JF全漁連副会長理事が読み上げ、満場一致で採択され、盛会裏に閉会しました。

JFグループの運動方針（2025（2029年度）は、JF全漁連のHPからご覧いただけます。

# (株)オークワ 九州・沖縄フェアを開催

事業推進部 営業課

さる11月23日から24日において、(株)オークワにて九州・沖縄フェアが開催され、県内各地の旬の鮮魚、加工品を中心に販売しました。

(株)オークワは和歌山県を中心に、東海地区から関西地区にかけて約150店舗を展開しているチェーンストアです。「九州・沖縄フェア」は毎年恒例のイベントとして、夏と冬の年2回開催されており、県内各地の鮮魚・養殖魚の他、各種加工品を販売しております。

今回のフェアにおいて、鮮魚については「まあじ」「まさば」「まだい」等、色とりどりの魚を陳列し丸体、切身の他、刺身や寿司等、様々な形態で販売し売上は好調でした。加工品については、主に「いさぎ」「れんこだい」等の開き物や「食べるいりこ」「煮干し」等をはじめ、長崎杉蒲の「イカ入りカツ」「えびカツ」等のカツシリーズを販売しました。更に、寒い時期ということもあり「甘鯛すり身」「えび入りすり身」「クエだしすり身」等の各種商材も大変好評でした。

また、今回初の試みとして、養殖ウスバハギの販売も行いました。養殖ウスバ

ハギは長崎市水産センターと県総合水産試験場が共同で試験養殖に取り組んでおり、人工種苗を用いた養殖は日本初となります。

バイヤーからは、「カワハギに引けを取らない身質」、「天然に比べて肝も大きく、臭みを感じない」等、多くの良い意見を頂きました。

今後の取り組みとして、鮮魚をはじめ加工品においても消費者のニーズに応じた商品提案を行っていき、長崎県の水産物の強みを活かし、魅力を感じるフェアを行い、日頃の販売強化に繋げていきます。



販売ブースの様子



販売されていた鮮魚



販売されていた鍋用具材

# 第12回長崎発「旨い本マグロまつり」品評会

長崎県まぐろ養殖協議会

さる12月14日、長崎サンプリエールにて、第12回長崎発「旨い本マグロまつり」品評会を開催しました。また、同日おくんち広場では第62回長崎県水産加工振興祭Withふるさと物産まつりが開催され、ステージイベントとしてマグロの解体ショーを行いました。

当品評会は、本県養殖マグロの品質向上と養殖業者の生産意欲向上を目的に、長崎発「旨い本マグロまつり」の一環として開催し、今回で12回目を迎えました。本年度は、県下各地区よりマグロ養殖業者7社により品評会を行いました。

○今年の出品業者

- 道水中谷水産(株) (下五島地区)
- (株)ツナドリーム五島 (下五島地区)
- (有)順洋 (上五島地区)
- (株)長崎ファーム (県北地区)
- 双日ツナファーム鷹島(株) (県北地区)
- (株)ニッスイまぐろ (吉岐地区)
- (株)西山水産 (対馬地区)

専門審査員13名(学識経験者・県内、県外の流通関係者)と、一般審査員17名(マスコミ関係者・長崎大学、長崎県立

長崎鶴洋高等学校の生徒等)の合計30名でブロック(腹側)の色調及び脂ののりを見定める外観審査に加え、試食用の刺身(背側)を食し、味・食感等による試食審査の2種類で行いました。

品評会会場では、各テーブルに並べられた出品魚を審査員が真剣な眼差しで観察し、審査を行っていました。厳正な審査の結果、今年之最優秀賞・優秀賞は次の通りとなりました。

★  
最優秀賞 双日ツナファーム鷹島(株)  
★  
優秀賞 (株)ツナドリーム五島

審査終了後、農林水産省の宮原顧問より講評が行われ「今回の審査では専門の1位と一般の1位が分かれる面白い結果となった。外観審査においてはドリッブ



専門審査員による審査の様子



一般審査員による審査の様子



マグロの解体ショーの様子

が出ているブロックがあったので、今後は改善すればもっと良いマグロができると思う」と述べられました。

○第62回長崎県水産加工振興祭Withふるさと物産まつり

品評会同日の12月14日に当祭事のステージイベントとして養殖マグロの解体ショーを行いました。解体ショーでは、双日ツナファーム鷹島(株)の永田氏、本協議会の大西企画部長など生産者代表による巧みな包丁さばきと軽快なトークで会場は盛り上がりました。時よりマグロに関するクイズを行い、正解した方に柵をプレゼントし満面の笑みで受け取っていました。

また、解体シヨ一終了後には本協議会のブースを設け、マグロの柵を販売しました。販売ブースでは今か今かと待ちにされるお客さんで長蛇の列ができていました。売り切れ次第終了のマグロの販売は1人5パックまでの販売とし、瞬間に売れていきました。

当祭事は年に1回12月に開催されており、一度足を運んでみてはいかがでしょう。本協議会としては、品評会を通して更なる品質向上を推進するとともに、県内外の消費者へPRを行って参ります。



販売したマグロの柵



販売ブースの様子

## 第62回長崎県水産加工振興祭 with ふるさと物産まつり

購販部 製品販売課

さる令和6年12月13日から15日にかけて長崎市元船町にある「おくんち広場」にて、第62回長崎県水産加工振興祭が開催されました。

水産加工振興祭は、国の表彰行事である農林水産祭への参加行事の一環として、長崎県水産加工振興祭水産製品品評会を開催し、その受賞商品を展示・表彰し併せて即売会を実施することにより、水産加工品のレベルアップと県民の水産加工品に対する認識を深め、本県水産加工業の振興を図ることを目的に開催されております。3日間行われた振興祭は様々な水産製品の販売に加え、「マグロの解体シヨ一」や「チャリティー模擬セリ」「ギョつとカードゲーム大会」などのステージイベントが行われました。今年はふるさと物産まつりと同時開催となったため、県内45社の出店業者が集い会場は多くの来場者で賑わいました。

本会ブースでは煮干や焼きあごといった乾物商品と塩蔵わかめの量り売りをはじめ、冷凍商品の養殖ぶりカマ煮付けや鰯・鯛・鰯の南蛮漬けなどの長崎県内で漁獲、製造された商品を販売しました。例年販売商品の中心であ

るカエリ煮干や塩蔵わかめは今年も好評で、お正月が間近であったため、出汁用の背黒煮干や焼きあご、小羽煮干も田作り用などご購入いただき3日間ではほぼ全て売り切れるほど大盛況でした。

近年では出汁パックや出汁入り製品の普及により一般家庭の乾物製品への需要が減少している中、今回開催された振興祭は長崎県民だけでなく観光で来られた方々へ、長崎県産の水産物のアピールができるいい機会になったと思います。振興祭は毎年開催される恒例イベントになっており、振興祭期間中お近くにお越しの際は、是非お立ち寄りください。



本会ブースで販売している様子

# 令和6年度 長崎県漁協管理職員研修会

総務指導部 指導課

さる12月12日、長崎県漁協会館にて、令和6年度長崎県漁協管理職員研修会を開催しました。

漁業協同組合における管理職員の資質向上を図り、漁協の発展に寄与することを目的に、長崎県漁協専務参事会と共催のもと、漁協管理職員研修会を開催しています。

今年度は、令和2年4月に愛媛県域で広域合併した愛媛県漁業協同組合の合併事例の他、吉崎市での植食性魚類駆除の取組みについて研修を行いました。

## □JFえひめの合併事例について

講師・愛媛県漁業協同組合

常務理事 山崎 亮氏

愛媛県では、平成19年度末までに地区ごとに集約することを目標に合併を進めてきたものの、経営規模が小さく中核的な役割を果たす漁協がない地区もあり、合併が目標通りに進んでいなかった。そこで、愛媛県漁連も当事者として合併に参画し、中核的な役割を發揮することで、合併の協議が進展した。

また支所毎（旧漁協毎）に独立採算性を採用したため、合併後も組合員に大きな影響を与えることもなく、合併しても

変わらない体制を維持できるとして組合員の賛成を得ることができた。合併はスタート地点であり、今後も漁協の経営基盤を強化し、愛媛県の漁業を守っていくことを目指している。



講義の様子（山崎常務理事）

## □吉崎市におけるブルーカーボンの取組みと植食性魚類駆除の取組みとその効果

講師・吉崎市水産課

課長補佐 長尾 康隆氏

吉崎市では海水温上昇により、植食性魚類（イスズミ等）が年中活性化することで、磯焼けが拡大していた。そこで吉崎市がイスズミ駆除活動を支援し、藻場の保全と増殖に取組んでいる。

活動の成果としてイスズミを3万匹以上駆除し、推定では年間1,400t以上の海藻類を食害から守ることができたとされ、実際に藻場が再生した地区がいくつも見られた。

また吉崎市では、二酸化炭素を吸収した量を金銭で売買する取組みであるカー

ボンクレジット制度を申請しており、約276haで藻場が繁茂したことが承認され、二酸化炭素吸収量は約974.6tとされた。得られた資金は更なる藻場の増殖に向けた活動費として使用される。



講義の様子（長尾課長補佐）

参加者からは、「今後の漁協運営に役に立つ内容であった」「合併のイメージが少し湧いた」「ブルーカーボンや磯焼け問題は各漁協の課題であるので、良い話ができて良かった」「イスズミ駆除の成果を見て、可能性を感じた」といった意見がありました。

今後も漁協活動の発展に向け、研修会を実施していきますので、ご参加いただきますようお願い致します。

# 第61回長崎県漁協専務参事会通常総会

長崎県漁協専務参事会

さる12月12日、長崎県漁協会館にて、第61回長崎県漁協専務参事会通常総会を開催しました。

はじめに主催者を代表し、濱村会長(有川町漁協)より開会の挨拶を行った後、長崎県水産部吉田部長、長崎県漁業協同組合連合会田代専務理事より挨拶が行われました。

その後、議案に入る前に松下参事(長崎市新三重漁協)より職員宣誓10カ条を宣誓し、浦口参事(浜串漁協)の司会進行のもと総会を開催しました。議長に阿比留参事(厳原町漁協)を選出し、協議が行われました。

- (議案)
  - 第1号議案 令和5年度活動状況報告及び収支決算承認の件(説明・吉山副会長)(監査報告・小宮監査役)
  - 第2号議案 令和6年度活動計画及び収支予算



会場の様子



職員宣誓 10カ条の様子



濱村会長挨拶

(案) 承認の件(説明・有川副会長)  
● 第3号議案 その他  
【全議案承認】

## 遊漁者の皆様へ

長崎県水産部漁業振興課

本県では、長崎県漁業調整規則において遊漁者等が使用できる漁具の一つとして「やす」を認めています。が、ゴム、ばね等の発射装置を有する「もり」は禁止されています。しかし、近年、遊漁者が「もり」に分類されるゴムにより投射する刺突漁具を使用することにより、漁業者との漁場利用を巡ったトラブルや、安全航行への支障など大きな問題となっております。

そのため、今般、遊漁者等が使用できる漁具「やす」について、漁業者と遊漁者とのトラブル防止、安全確保、取締上の根拠を明確にする観点から、長崎県漁業調整規則第45条の一部について、下記のとおり「やす」の定義を明確にする改正を行い、令和6年8月30日に公布しました。

なお、施行につきましては、一般の方々に広く周知する必要がありますことから、令和7年3月1日を施行日としています。

### 【改正の内容】

遊漁者等の漁具、漁法の制限の明確化 ※傍線部分を追加

第45条 何人も、海面において次に掲げる漁具又は漁法以外の漁具又は漁法により水産動植物を採捕してはならない。

(ア) やす(ゴム、ばねその他の発射装置を有するものを除く。)、は具

～遊漁者の皆様へ～  
発射装置付きのやすは「もり」に該当するため使用禁止です!!

発射装置<sup>※</sup>が付いた「やす」については、「発射して魚介類を突き刺す『もり』」に該当し、長崎県漁業調整規則に違反する漁具となるため、本県では海での使用を禁止しています。

違反漁具を使用した場合、罰則の対象となりますので海で遊ぶ際はご注意ください。

※発射装置：弓、鉄砲、ゴム、ばね等、突き刺すのに用いる動力となり得るもの全般です。



問い合わせ先：長崎県 水産部 漁業振興課  
TEL:095-895-2821 FAX:095-895-2584

# 第62回長崎県水産加工振興祭水産製品品評会

総務指導部 指導課

さる11月28日、出島交流会館にて、第62回長崎県水産加工振興祭水産製品品評会が開催されました。出品数223点の中から、左記の通り受賞されました。

第62回長崎県水産加工振興祭水産製品品評会 受賞者

審査委員長特別	長崎県漁業協同組合連合会	長崎県水産加工振興協会	長崎市長	長崎県知事	水産庁長官	農林水産大臣	賞区分
水産加工V類	水産加工III類	水産加工II類	水産加工IV類	水産加工III類	水産加工II類	水産加工I類	部門
鯛のマリネージュ(モンペッパー添)	ブリビザまんじゅう	柚子塩ふり	あじ天	銀タレ	あじ天	熟成 半月天	水産加工IV類
クックフーズ山商店	百包館	御丸富水産	御丸富水産	御丸富水産	御丸富水産	御丸富水産	佐世保市
長崎市	平戸市	佐世保市	諫早市	佐世保市	長与町	西海市	松浦市
五島市	平戸市	雲仙市	松浦市	五島市	長与町	松浦市	五島市
長崎市長	長崎市長	長崎市長	長崎市長	長崎市長	長崎市長	長崎市長	長崎市長
長崎県知事	長崎県知事	長崎県知事	長崎県知事	長崎県知事	長崎県知事	長崎県知事	長崎県知事
水産庁長官	水産庁長官	水産庁長官	水産庁長官	水産庁長官	水産庁長官	水産庁長官	水産庁長官
農林水産大臣	農林水産大臣	農林水産大臣	農林水産大臣	農林水産大臣	農林水産大臣	農林水産大臣	農林水産大臣

## 令和6年度臨時人事異動発令

発令 令和7年1月1日付 長崎県漁業協同組合連合会

氏名	新所属	旧所属	備考
田中 幹大	総務指導部 品質管理室	品質管理室	課長代理(兼) 室長代理

## 募金ありがとうございます

### (公財) 漁船海難遺児育英会

(公財) 漁船海難遺児育英会は、漁船の海難事故(転覆・衝突等)や海中転落等の事故により、親を亡くされた遺児の経済的・精神的援助を目的に設立され、幼児から小中高生・大学生に学資事業を行っています。

しかし、教育費の高騰により資金的にはまだ十分とはいえませんので、今後とも皆様の温かいご協力をよろしくお願いいたします。

12月には次の方々からご寄付をいただきましたのでここに厚くお礼申し上げますとともに、紙上にお名前を掲載させていただきます。(敬称略)

(団体)

- ▼長崎県信用漁業協同組合連合会職員組合
- ▼長崎県漁業共済組合
- ▼日本漁船保険組合長崎県支部
- ▼全国共済水産業協同組合連合会長崎県事務所
- ▼長崎県漁連

# 漁船海難月報

令和7年1月号 第七管区海上保安本部  
第254号 交通部安全対策課 発行

令和6年12月発生  
七管内漁船海難 計4隻

令和6年12月末現在 累計62隻(前年同81隻)  
漁船海難発生隻数は前年に比べ19隻減少

漁船海難隻数 (速報値)	県別内訳	
	12月	令和6年累計
衝突 ★ 1	山口県 1	8(8)
火災 ● 1	福岡県 0	8(21)
運航不能 (機関故障) ■ 1	佐賀県 0	4(4)
運航不能 (有人漂流) ◆ 1	長崎県 3	33(37)
	大分県 0	9(10)
	その他 0	0(1)
合計 4隻(昨年9隻) 死亡、行方不明者: 0名	合計 4隻	62隻(81隻) 0は昨年同月

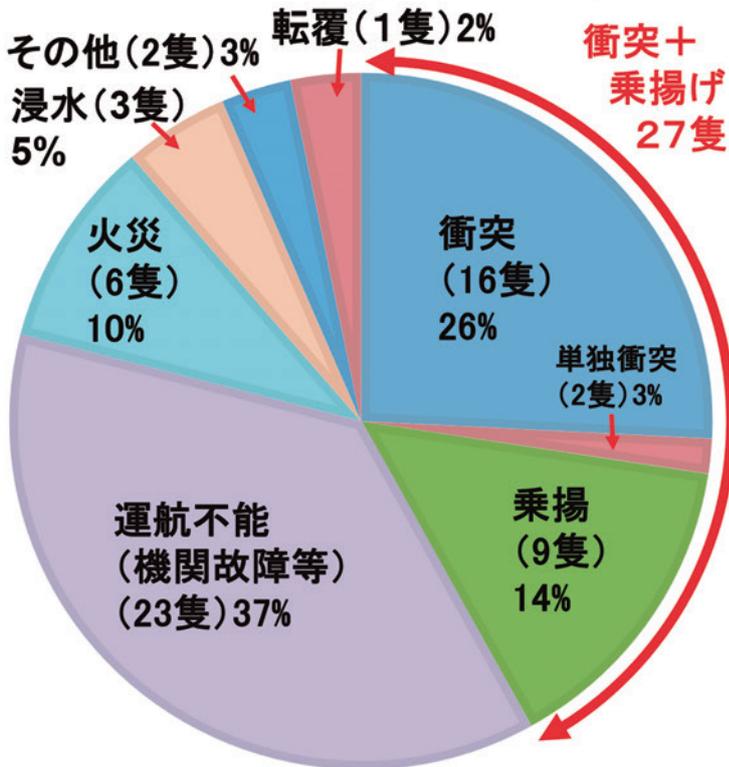


累計死亡・行方不明者数 8名(令和6年12月末日現在)

## 令和6年漁船海難

過去最少！令和6年の海難隻数は19隻減少！しかし、依然として…

令和6年漁船海難(累計62隻)



令和6年は、昨年に比べ海難の隻数は19隻減少していますが、**衝突と乗揚海難の占める割合は多く、乗揚については昨年とほぼ変わっていません。**  
こういった海難を減らしていくためにも、**見張りの徹底やこまめな休憩等を実施し、安全運航に努めましょう。**

本年も「ご安全に！」よろしくお願ひいたします！



# インターネットショッピングサイト

長崎県の安全・安心で新鮮な鮮魚・加工品を  
インターネットを通じてダイレクトに食卓へお届けします!!  
美味しいものはここにある



## 長崎漁連

ウェブショッピング JF長崎漁連

<https://www.jf-nagasaki.com>

長崎自慢の海産物を  
ネットでお取り寄せ!

長崎漁連 検索

JF 長崎県漁業協同組合連合会

# 海の事故 0 を目指して

## 自船の安全確保3か条

**その1 発航前、機関や燃料等の点検の実施**  
発航前は、船体とエンジン周り、燃料・潤滑油の量、バッテリーの状態を点検するとともに、最新の気象・水路情報等入手しましょう!

**その2 航行時、常時見張りの徹底**  
航行時は、他の船舶の動向や浅瀬・定置網など周囲の水域の状況を継続して把握する必要があることから、常時適切な見張りを実施しましょう!

**その3 故障時に備え、救助支援者の確保**  
事故で最も多いのが機関故障! 発航する際は、万が一の機関故障の発生に備え、仲間の船やマリナー等の救助艇による救助体制をあらかじめ確保しておきましょう!  
また、併せて入航時刻等を家族やマリナー等へ連絡しておきましょう!  
※水上オートバイは民間救助組織の対象外の場合がありますので注意しましょう。

海難防止のためのいろいろな情報を掲載しているよ!

**Water Safety Guide** 海上保安庁 海を安全に安心して楽しむための総合安全情報サイト! ウォーターセーフティガイド

船舶海難通報 マリンレジャー人身海難通報 日々海難を掲載! 海難通報

ツイッター公式アカウント @JCG\_koho YouTube公式アカウント 海上保安庁

JCG 海上保安庁 海の安全推進本部  
海上保安庁交通部安全対策課  
TEL 03-3591-6361 (代表) MAIL jcg-mics@mlit.go.jp

# あっぱれ

信頼を実績で築く  
船舶塗料の専門店

CMP 中国塗料株式会社 山二塗料です

外壁塗装+屋根塗装なら  
山二におまかせください!!

山二塗料産業株式会社  
0956-31-8020  
095-837-8020  
099-260-0600

# まごころで大きく包む

パッケージ資材全般・包装機械

## 株式会社 丸本

包むちゃん

本社・営業部 / 〒851-0134 長崎市田中町593-1  
☎ 095-837-8205 FAX 095-837-8208  
工場・営業所/福岡工場・熊本工場・福岡営業所

# 定置網周辺の潮流・水温リアルタイム計測

潮流・水温観測用パイプ

株式会社ゼニライトバイ

九州営業所 TEL:092-674-0001 FAX:092-674-0002

日付	時刻	電圧 (V)	電流 (A)	水温 (℃)	潮流 (cm/sec)	流速 (cm/sec)	電圧 (V)	電流 (A)
2023-07-09	08:40:30	6.00	24.1	20.22	15.20	20.86	11.14	0.20
2023-07-09	08:40:33	6.00	24.1	20.49	11.92	37.24	11.14	0.21
2023-07-09	08:20:33	6.00	24.4	20.48	11.95	26.53	11.13	0.21

一般作業用長靴

# ハイビジョン

(23.0cm ~ 28.0cm)

SHIBATA

シバタ工業株式会社  
長崎出張所 〒852-8124 長崎市辻町3-40 平山ビル1F  
TEL:095-944-1210

シーガル201

SHIBATA

# FURUNO

CHALLENGE the INVISIBLE.

“見えないものを見るために”

古野電気株式会社  
北九州支店 / 長崎営業所 095-861-3261 佐世保営業所 0956-48-4440  
福岡営業所 092-711-1777 [www.furuno.com](http://www.furuno.com)

# Printing & Planning SEIBUNSHA

(有)正文社印刷所

〒850-0874 長崎市魚の町6番6号  
TEL (095) 826-0211  
FAX (095) 825-0538  
URL <https://seibunsha.jp>

18190097

SDGs

貝殻  
リサイクル魚礁



# JFシェルナース



魚礁  
(6.0型)



イサキ(対馬市)



ヒラマサ(西海市)



メバル(佐世保市)



イセエビ(新上五島町)



マダイ(対馬市)



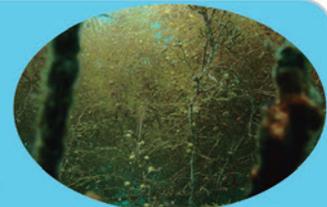
マアジ(南島原市)

保護礁  
(プラス1.0型)



漁業者による  
種苗の準備

取り付けた海藻は  
順調に  
生長しています!



設置10年以上経過  
ホンダワラ類(長崎市)



2カ月後(長崎市)



1年2カ月後(対馬市)



1年5カ月後(平戸市)

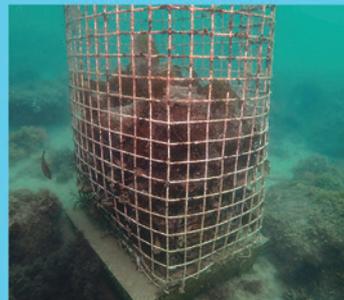
漁師の考えた小型ブロック

かいそう  
貝藻くん



60cm×55cm×45cm、重量60kg

長崎県内で1,156基(全国約12,573基)  
ご採用いただいております(2013~2024.4.1現在)



クロメ生育状況



下の隙間に隠れるクエ

お問合先 JF長崎漁連 購販部 購買課 TEL 095-829-2420

開発・製造 海洋建設株式会社



**JF**  
JFグループ

着けよう、  
あなたが家族のことを  
思うなら。

めさせ！  
海難事故

膨張時

反射リフレクター  
エア-吹入補充バルブ  
ホイッスル  
炭酸ガスポンプ  
手動レバー

自分の命は自分で守る！  
わずらわしさと窮屈さから解放！  
ベスト感覚で着れる  
ファッションなライフジャケット  
常時着用型救命胴衣(自動膨張式)

お問い合わせは、長崎県漁連 購買課まで TEL 095-829-2418~2420

# 「ギョレンオイル大漁」 発売から 50 年



「ギョレンオイル大漁」は、漁船で使用される機械とその使用条件を考慮して定めた規格に合わせて開発した、漁船のためのエンジンオイルです。

ギョレンオイル  
**大漁**  
シリーズ

## 大漁スーパー

中・小型漁船の高速エンジン用 (SAE30、40、15W-40)

## 大漁ロイヤル

大・中型漁船の中・低速エンジンオイル (SAE30、40)

## 大漁LL

大・中型漁船の長期航海用 (30、40)  
小型高出力エンジン用のロングライフオイル (15W-40)

## 大漁ハイドロスーパー

耐荷重性に優れた漁船用油圧作動油 (ISO VG32、46)

## 大漁ベストクール

陸上冷凍装置から遠洋漁業の超低温冷凍装置まで (ISO VG32、46)

漁協は、JFグループへ。

JFブランド商品

# “ギョレンオイル大漁シリーズ”

漁船用エンジンのための最高級オイル。

〈エンジンオイル〉

- 大漁スーパー
- 大漁ロイヤル
- 大漁LL

〈油圧作動オイル〉

- 大漁ハイドロスーパー

〈冷凍機オイル〉

- 大漁ベストクール



海には、JFマークの商品を。

**JF**

JFグループ

問い合わせ先  
問い合わせ先

JF全漁連 購買事業部 石油第2課  
JF長崎漁連 購買課

TEL 03-6222-1323  
TEL 095-829-2419



発行/長崎県漁業協同組合連合会

〒850-8686 長崎市五島町2番27号 TEL095-829-2413  
年間購読料 2,000円 (会員の購読料は会費に含む)

長崎県漁連 WEBサイトアドレス  
<http://www.nsgyoren.jf-net.ne.jp/>

